

# 生徒とともに創る授業

— アクティブラーニングの一試案として —

長 倉 伸 子

## 一 はじめに

高等学校の国語科でもアクティブラーニングが推奨されるようになり<sup>1)</sup>、巷にはさまざまな実践例が報告されている。しかし、それが今までの国語科の実践、例えば今までに行われてきた課題解決学習、生きて働く国語科<sup>2)</sup>としての実践や、大学の講義においてよく行われる「演習」とどのように違うのか。どのように違わねばならないのか。生徒の活動を中心に置いた授業 (Child centered Program)<sup>3)</sup> について今まで考察してきたことを踏まえ、十二月に行った授業を提示して考えていきたい。

## 二 授業展開

①教材名 「骰子の七の目」(恩田 陸『私と踊って』

新潮社より。第一学習社『現代文』)

## ②教材について

本教材は、主人公が「良識ある都民」とともに二者択一するための会議を行うが、そこへ現れた「女」によりプロパガンダ的思考を指摘され、自らが忘れていた選ばない大切さに気付かされる、という小説である。現実の事物を引用しつつ、表現される恩田陸独特の世界が繰り広げられている。

## ③指導目標

本教材を通し、二者択一して「選ぶ」行為だけでなく、「選ばない」行為も価値観として存在するということに気付かせたい。この主題に迫るため、作者の独特の表現や構成を読み取らせる手立てとして図書館で手軽にできるアクティブラーニングを取り入れ、生徒主体の学習を展開したい。

④学習者について

本学級の生徒は高校普通科女子二十五名で、進路はその殆どが文系志望である。日頃から感性豊かではあるがSNS等の発達により自らの関心のある情報ばかりを得たがる傾向にあるからか、語彙や基礎知識に欠ける部分も多く、本文中の「舌切り雀」の昔話を知っている生徒は二十五人中ただ一人であった。また、教室での態度はややもすると受け身になりがちであり、教師主導型の授業となってしまうことも多い。

〈学習計画〉

第一次限 全文を通読し、語句や段落を確認

第二次限 図書館で課題ごとに調べ学習、生徒による

読み聞かせの実践。(本時)

第三次限 本文中「会議の様子」を読み取る。

(二時限の生徒作成資料を使用。)

第四次限 プロパガンダ、骰子の七の目について読解。

(二時限の生徒作成資料を使用。)

第五次限 まとめ 感想を書く。表現について学ぶ。

⑤本時の展開

本時(五時間中の第二時間目)では、場所を教室から図書館に移し、生徒の班ごとの調べ学習を中心に学習を行った。課題を書いた紙(課題カード)を準備し(資料1)

「舌切り雀」について	
絵本を探す	
読み聞かせの練習	
希望者氏名	
(            ) (            )	(            ) (            )
(            ) (            )	(            ) (            )

(資料1) 課題カード

自分が取り組みたい課題について班をつくり作業すること、その班は二〜四人のグループとすること、を生徒に周知した。

生徒に提示した課題カード（形式は資料1と同様）

a 「舌切り雀」について

絵本を探す・読み聞かせの練習

b 「泉に斧」の童話について

出典を調査・読み聞かせの練

c プロパガンダについて調べる

d 渋谷交差点界隈について

コンピューターで調べる・画像を保存する

e 登場人物について↓本文を読んで似顔絵を書く

f 作品から比喩表現を抜き出す

g ガムランについて調べる

以上の七枚の課題カードを提示。生徒は自分が選んだ課題カードに氏名を記入したあと、同じカードに名前を書いた生徒同士で班を作り、三十分間で課題を解決するという活動を行った。

残る二十分はaとbの課題を希望した生徒が他グ

ループの生徒の前で実際に読み聞かせをした。

### 三、各課題に関する生徒の活動と考察

#### 課題 a・b 「読み聞かせ」について

生徒にとつて出典を探す作業が難しいようだったが、司書に尋ねたりしてどうにか探し出した。読み聞かせは、生徒の発案で登場人物をそれぞれ役割分担して読み、皆に披露した。まるで劇のように生き生きとしており、教師が淡々と読み聞かせるより明らかに効果があがった。

#### 課題 c・g 「語句について」

生徒たちは図書館のコンピューターで、インターネットを駆使して調べていた。その後辞書や書籍で確かめていた。

#### 課題 d・g について

これらはインターネット検索サイト<sup>4</sup>で探した写真を紹介。生徒それぞれの感性が現れたものだった。（資料2）第三時限以降の学習活動で毎回黒板に掲示し、文章の読み取りやイメージ作りに役立った。

課題 e について

登場人物の絵を描くために担当生徒たちは、まずは本文をよく読まねばならない。登場人物の性別や年齢に始まり、身なりや体格等生徒たちは知らず知らず本文を深く読み、話し合っ作て作成していた。完成した登場人物の絵は各発言の板書とともに黒板に掲示し、本文「戦略会議場面」のまとめに使用した。(資料3・資料4)



(資料2) 生徒が見つけた写真



(資料4) 授業風景

「学術的かつ知的な雰囲気の漂う忠津さん」(本文より)



「恰幅はよいが威圧的な城間さん」(本文より)



(資料3) 生徒が描いた絵

### 三、まとめ

受験対策や定期考査との兼ね合いもあり、毎回このような形の授業はとれないであろうとは思いますが、生徒が自分の言葉や教材で説明を行う（資料4）ことのメリットは明らかであった。説明する側の生徒は自分の発表の為に良く調べ工夫し、また、聞く側の生徒は良く考えつつ聞けたと思う。ここに生徒感想の中で本活動に触れている部分を抜粋して挙げる。

「図書館で調べ学習をするのは楽しかったし、勉強になりました。国語で調べ学習するのはあまりなかったので良い経験になりました。」

「いつもと違う感じで授業を進めたけど、調べ学習をしてみて楽しかったです。自分たちで書いたりするのは良いです。」

「教室で授業を受ける時、登場人物の絵の下に、台詞の要点を書き出すことによって、話の流れが頭に入って来やすく登場人物のイメージを想像しやすかった。」

冒頭にも書いたが、アクティブラーニングの小さな試みとして本授業を行った。結果として、生き生

きとした生徒の活動が見られ、この時間のあと、教室で読解した時も、自分たちが作ったものが教材として現れてくるため、最後まで集中して取り組みた授業となった。さらに、今回の指示カードを生徒自身が作れるようになれば、より内容の深い学びができるようになると考ええる。しかし、そのためには、今回の授業のような経験のくりかえしが必要であろう。そしてその活動こそが、今後生徒たちの上級学校での営みにおいて、或いはゼミの演習課題や、卒業論文のテーマ決め、ひいては人生における自らの問題解決能力を育むことに繋がってゆくと考える。

註 1・2 現行小・中学校学習指導要領より

3 長倉伸子「買い物ごっこから経済学習へー米国メリーランド州公立小学校での実践から」『国語国文研究と教育』第四十七号（二〇〇九年）pp.53

4 フリーのサイトのみを使用するように指示した。